



前作『普通に生きる』が世に対する問題提起だったら、その続編であり新作の『普通に死ぬ』は、死を見つめ追うことで、この世に暮らす私たち全ての「生」を照らし出した強烈なカウンターパンチだと思う。福祉、医療、少子高齢化、社会制度、資本主義、現代社会が抱えている問題を、障害児の暮らしを通して見事に私たちの目の前に並べてみせた。

だれかが決めた普通じゃなくて
その人の普通をその人らしく生きられたらいい
これは地域で、たくさんの人に支えられて、支え、
いのちを尽くして生き合う人たちの記録



生きて、生きて、生きて、
普通に生きて

第25回
あいち国際女性映画祭2020
招待作品

普通に死ぬ

～いのちの自立～

ドキュメンタリー映画『普通に生きる』続編



その人らしく生きてその人らしく死ぬ。この映画はガチガチに固まった既成概念や正論に縛られ、身動きしづらくなっている私たちに新しい考え方を提示してくれる希望の作品だった。

©2020/長編ドキュメンタリー映画/
HD/カラー/119分
製作・配給: motherbird・Cinema Sound Works
著作・配給: motherbird
録音: 中山隆匡
音楽: 木-Kodama- 暁
ナレーター: 余貴美子
プロデューサー: 梨木かおり/貞末麻哉子
監督・撮影・構成・編集: 貞末麻哉子



年齢を重ねてゆく重い障がいがある人とその家族……。在宅生活の中心的ケアアが病に倒れると、残された医療的ケアの必要な人が、生まれ育った「地域で生きる」ことはなぜこれほどまでに困難なのか。前作『普通に生きる』から十年。家族と支援者の葛藤や気付き、「一緒に生き合う」取り組みを追い、厳しい現実から希望を見出すドキュメンタリー。

